



IEEE Tokyo Section Life Members Affinity Group

昨年の総会はまさに東日本大震災当日でした。あれから1年、今年の総会では、引き続いての東京支部総会の中で、被災された方々を想起しつつ、一同で黙祷を捧げました。本号では2012年度総会と2012年度第1回 東京支部 LMAG 講演会についてご報告いたします。

2012 年度総会報告



(左から) 東京支部 Chair 青山氏、
同 Vice Chair 雁部氏、LMAG Secretary 持田氏

3月13日(火)午後2時より、IEEE 東京支部 Life Members Affinity Group 2012年総会が機械振興会館 B2階 ホールで開催されました。今回は、葉原 Chair が所用で欠席のため東京支部青山支部長の挨拶の後、2011年活動報告および2012年活動計画が持田 Secretary から提案され、承認されました。2012年活動計画では東京支部 Technical Program Committee はじめ GOLD (Graduates of the Last Decade) などとも連携して引き続き講演会を開催することや、IEEE 日本カOUNシル History Committee に協力して、IEEE Life Members Committee 主催の「IEEE Milestone Technical Tour Program」の日本来訪(5月20日 - 28日)を歓迎することも提案されました。また、LMAG 会員数が1月末で431名となったことも報告されました。



総会風景(総会出席者人数: 22名)

フロアからは、「IEEE Milestone Technical Tour Program」についての補足PRや、役員任期についての質問などがありました。

詳細な資料は東京支部 LMAG サイト内の[総会資料](#)をご覧ください。

第1回 講演会実施報告

2012年度第1回東京支部、LMAG、GOLD 共催の講演会が4月9日(月)午後4時から、中央大学理工学部 後楽園キャンパス 3号館 10階 31008号室(大会議室)にて開催され、87名の参加者がありました。

講師 内海善雄氏(前ITU事務総局長、
IEEE Honorary Member)

演題 「デュアル・モード - グローバル化時代の
サバイバル・スキル」



講演者: 内海 善雄氏

開催趣旨

講演に先立ち、計画元のLMAG 葉原 耕平 Chair より以下のような開催趣旨が述べられました。

IEEE Honorary Member である内海善雄氏は1999年から2007年まで8年に亘って ITU(国際電気通信連合:国連傘下の組織)で日本人初の事務総局長として活躍されました。今回の講演会は、各国が多様な考え方のもと国益をかけてきたたかな駆け引きを繰り広げるグローバル時代に向けて、ITU

事務総局長としての得難い経験談を伺うことを中心に、特に若手技術者に求められる資質などにも言及して頂くことを予定しています。シニア層はもちろん、多くの会員、ことに GOLD など新進気鋭の若手会員の積極的参加を期待し、東京支部、GOLD の共催、さらに電子情報通信学会にも協賛をお願いしました。

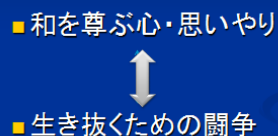
概要

まず内海氏は ITU（国際電気通信連合）が 1865 年設立の世界最古の国際機関であり、191 の加盟国を擁し、約 1000 名の職員からなる巨大な機関であることを紹介され、事務総局長としての 8 年間に、第 3 世代携帯電話規格の合意、IP 電話の促進、世界各地での地上デジタル TV の方針の合意、世界情報社会サミットの開催などの実績をあげたことから語り始められました。

同氏はジュネーブで、常に「グローバル社会」と「日本」について意識して来られましたが、特に「生存競争が不得手な日本人」については、いくつかの事例を挙げつつ痛切に指摘をされました。日本人の、大災害でも冷静であった美徳が語られる一方で、日本国の利益を意識することが少なく、戦略性に欠ける傾向にあること、「超お人よし」ともいえる姿勢が世界の中でなかなか理解されないことを、懸念とともに語られました。

このような日本はかつての好環境の中でこそ奇跡を生みだし続けましたが、現代のように米国が凋落しアジアが台頭して全てがグローバル化し、技術がコモディティー化し、20 世紀文明が行き詰まってくると、日本人の従来の価値観に疑問が生じることについて語られ、「協調性やバランス感覚重視で外国に勝てるのか」や、「平等教育やゆとり教育で人材は育つのか」という問いかけをされました。

聴衆が考えを巡らせていると、内海氏は「グローバル化時代のサバイバル・スキル」として、矛盾する二つの価値に対処する「Dual Mode」という生き方を提案されました。すなわち「和を尊ぶ心・思いやり」というすばらしい日本的発想を再発見しつつ、生き抜くための闘争をしたたかに貫いて生きるという対処です。



今求められていることは、日本の立ち位置を正しく認識し、パラダイム・シフトを再認識し、日本や日本人の良さを再認識するとともに、科学技術教育の強化、女性や高齢者の力の再認識、減反政策や衰退産業保護政策の廃止、外国人の受け入れ、国際スタンダードの採用などの政策を強力に推進することであると述べられました。最後に、地球環境を守ろう、地球上で生き残ろう、真の幸福を追求しよう、これらを皆でやろうと力強く結ばれました。

講演の後に、フロアからの質問に応えた議論が続きました。内海氏は、日本が外国人を受け入れることは避けて通れない課題であり、このことを通して Dual Mode を経験していくべきであること、IETF (The Internet Engineering Task Force) などのデファクト標準が活発になる中でも、ITU などのデジュール標準は重要であり、日本の貢献も求められること、日本の若者はぜひ留学すべきであること等が語られました。若手会員からの「進路を考えるにあたってのヒント」の求めに対する「あなたは Dual Mode のどちらを選びますか」という逆問かけは、自分の頭で考えることの重要性を指摘した、本質を突いたものでした。

最後に葉原 Chair から感謝の言葉があり、盛況のうちに講演会を終えました。なお、内海様からは当日の資料がホームページに掲載されている旨ご連絡を頂きました。ご関心のある方はご覧ください。
<http://yutsumi.web.fc2.com/message/speeches/speech.html>



講演会の様子

次回イベント情報

現在計画中ですので決まり次第お知らせいたします。

IEEE Tokyo Section Life Members Affinity Group
Newsletter 2012 年 5 月 23 日発行 第 6 号
発行: IEEE 東京支部 Life Members Affinity Group
〒105-0011
東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 517 号室
URL: <http://www.ieee-jp.org/section/tokyo/lmag/index.htm>
E-Mail: tokyosec@ieee-jp.org